



野生鳥獣由来の人獣共通感染症の実態把握、リスク評価を行うとともに、感染症対策としての野生鳥獣管理手法を提示

1. 事業目的

国内における野生鳥獣由来の人獣共通感染症の実態を把握するとともに、人獣共通感染症の人及び野生鳥獣双方の観点から対策が必要な鳥獣（感染を拡大させる鳥獣、感染症による影響を受ける鳥獣の両面）及び地域等を抽出し、リスク評価を行うとともに、感染症対策としての野生鳥獣の保護管理を推進するためのガイドライン等を取りまとめる。

2. 事業内容

(1) 野生鳥獣由来の人獣共通感染症の実態把握調査

- ニホンジカ、イノシシ、アライグマ、タヌキ、ハクビシン、アナグマ等の国内に生息する主な野生鳥獣を対象として、人や他の野生鳥獣への感染可能性や野生鳥獣の利用実態について、他機関による既存の調査、海外の感染症発症事例等を活用して把握・分析し、対策の優先度に関するスクリーニングを行う。

(2) 野生鳥獣による人獣共通感染症のリスク評価と感染症対策としての野生鳥獣管理手法の提示

- スクリーニング結果等をもとに、感染症対策としての野生鳥獣管理が必要と考えられる地域を抽出し、野生鳥獣の活動域やその重複状況、抗体保有率等のデータをもとに人及び野生鳥獣双方への感染症リスクについて評価を行う。また、感染症対策としての野生鳥獣管理ガイドライン等として提示する。

(3) 基盤体制の構築

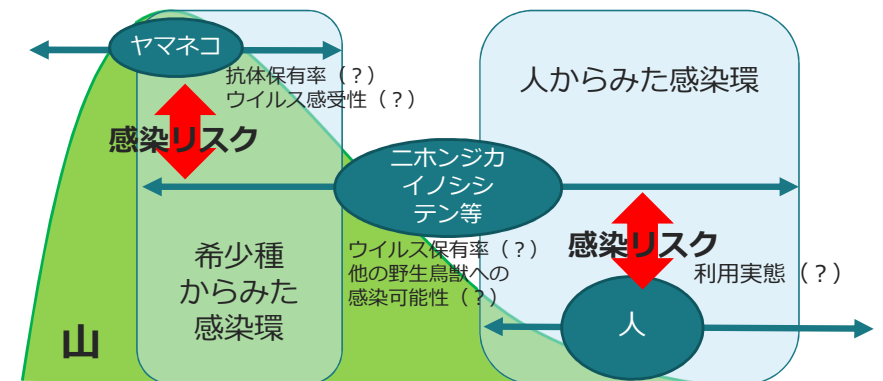
- 野生鳥獣の生態や感染症関係の専門家等を構成員とする検討会を設置するとともに、獣医学や公衆衛生分野の関係機関等との情報共有等に関する連携体制を構築する。

3. 事業スキーム

- 事業形態 請負事業
- 請負先 民間事業者・団体
- 実施期間 令和3年度～令和5年度

4. 事業イメージ

モデル地域（感染症の実態把握・リスク評価・管理手法の提示）



- ・ 対策が必要な鳥獣及び地域等を抽出
- ・ 感染リスク（↑↓）を断ち切るための野生鳥獣の保護管理手法・ガイドライン等の提示

年度	事業概要
R 3	情報収集、スクリーニング、リスク評価手法検討等
R 4	現地調査、抽出地域でのリスク評価、管理手法検討等
R 5	野生鳥獣管理手法の提示、情報発信の体制構築等